

令和6年度 学校評価報告書

1 スクールミッション

地域や大学、研究機関との連携による先端的・探究的な学びや、進路希望の実現に向けて主体的に科目選択ができる単位制による学びを通して、地域や国の未来を切り拓くことができる人材を育成する。

2 学校教育目標

主体的に物事に取り組み、様々な他者とのつながりを通して自らを高め、未来を切り拓くことのできる生徒を育てる。

3 重点目標

- (1) 確かな学力を持ち、探究心・想像力が豊かで学んだことを表現できる生徒を育てる。(学力保障)
- (2) 行動力を持ち、自己実現に向けて自立した生徒を育てる。(進路保障)
- (3) 豊かな人間性を持ち、社会をたくましく生き抜く力を持つ生徒を育てる。(資質保障)

4 学校経営方針

- (1) すべての授業、探究活動、学校行事、生徒会活動、部活動で生徒、教職員全員が『伸びる 伸ばす』という信念を持って取り組む。
- (2) すべての生徒・教職員が「大切にされている」集団をつくる。
- (3) 全職員による組織的で効率的な学校経営を推進する。
 - ※ 「粘り強く、自分の頭で考えること」
 - ※ 「一人で解決できないときは、周囲に助けを求めること」

【合い言葉】「伸びる 伸ばす」

【益高生に身につけさせたい8つの資質・能力】

- ①自主性、主体性 ②思考力、創造力 ③課題発見・解決力 ④社会性、協働性 ⑤粘り強さ、逞しさ ⑥表現力、発信力 ⑦マネジメント力 ⑧自己肯定力

重点目標	分掌別目標(具体的な取り組み)	成果指標	具体的な取り組みと達成状況・教職員による自己評価	学校関係者評価・意見	次年度へ向けての方針・改善策	
学力保障 学習指導に関すること	・授業改善を意識し、指導力向上の施策を行い、教科指導の充実を図る	教職員の自己評価 3.0以上(4段階) を目標とする	・「生徒に疑問を持たせる授業～いかに教師が発問するか～」というテーマを設定し、相互の授業見学(授業興隆週間)を行った。外部からの見学者も多く、様々な意見をいただいた。	3.2	・来年度は生徒に手帳を持たせ、それを活用する方向で準備を進める。ソーシャルスキルや自己管理能力の向上、教員の働き方改革を図る手段としてはかなり有効だと考える。 ・定期試験前に学校開放を実施し、毎回延べ50人程度の利用があった。学習場所の提供は学力保障につながるので来年度も実施する。 ・授業興隆週間は次年度もテーマを設定し行う。 ・他校視察(先進校視察)は予算の範囲内で実施を継続したい。	
	・生活時間調査を実施し、生活習慣・学習習慣の確立とマネジメント能力の向上を図る		・「未来つくる手帳」に学習時間、生活時間を記入する形で、生活時間調査を年間5回実施した。キセキがなくなり、年間を通じた生活時間の把握が難しかった。	2.8		・生徒の知的好奇心に応え、子供が自ら学びたいと思える学校であるべきである。
	・図書館の学習センターの機能を整え、学ぶ場としての利用を推進する		・SSHや進路と連携して受験や学習に役立つ資料を集めた「受験・学習応援コーナー」の設置、新聞データベースの導入など生徒が最新の情報を入手できる環境を整えた。	3.3		
	・探究的な学びの基盤となる論理的思考力、プレゼンスキル、データ活用力を身につけさせる		・SSH事業として計画した各学年別の取り組みもそれぞれ概ね計画通りに進めることができおり、生徒・保護者アンケートからも肯定的回答が多かった。課題探究や課題研究において外部との連携を増やし、各発表会などでしっかりとした発表ができた。グループでの探究・研究活動を通して他者と協働する力や調整する力を身につけていくことが大事だと説明し、生徒や保護者の理解を促したい。	3.1		・SSH事業の益田さいえんすたうんや地域巡検などを通して、地域とのつながりを意識し、課題研究では、外部(大学・県内外SSH指定校・地元企業など)との連携を強化し、オンラインも活用して外部発表会への参加の機会を確保するなどして研究内容の深化を図る。
	・課題探究、課題研究などを通して他者と協働する力を身につけさせる			3.2		・SSH事業の成果の波及として、報道機関への情報提供をこまめに行う。
	・SSHの取り組みを通して、科学への興味関心、地域貢献への意識を高めさせる			3.3		
進路保障 進路指導に関すること	・学年部と教科担当との連携を図り、授業第一の姿勢と家庭学習の定着を図る	教職員の自己評価 3.0以上(4段階) を目標とする	・生活時間調査を軸に生徒の学習に取り組む状況の把握に努め、各担任や教科担当による面談を実施した。教育相談・特別支援コーディネーターとも連携しきめ細かな指導を行った。	3.2	・年々生徒の学力幅が広がっていることは間違いなく、この傾向は今後も続くものと思われる。学習に困難を抱えている生徒や家庭で学習する環境が整わない生徒が増加傾向にある。生徒それぞれが自分に合った計画の立て方や学習方法などを身につけ、主体的に学習に取り組んで行けるよう引き続き支援したい。担任、学年部、教科担当だけでなく、必要に応じてみらいデザインルーム、特別支援教育コーディネーターとも連携を図りながら進めていきたい。 ・新課程に対応した入試が行われ、より精密な情報収集と適切な情報提供が進路目標実現に向けて重要となる。アンテナをしっかりと張って、必要な情報提供と進路支援を行う。入試制度が複雑化し、生徒の進路志望も多様化しており、こちらからの情報提供だけでなく、生徒自ら必要な情報を取りに行く力の育成も考える必要がある。一方で働き方改革の視点からも進路指導体制全体の見直しを図り、様々な改革を推進する。 ・次年度は情報提供の方法について、図書館に足を延ばすような工夫をするなど、一定の見直しが必要である。	
	・生徒面談を密に行い、具体的な進路目標の設定を支援する		・担任との個別面談の回数を多く設定するとともに、学年ごとに行われる進路検討会で協議した内容を伝えながら個々に応じた支援を行った。	3.2		
	・ホームルーム活動における進路学習を充実させる		・各学年において進路学習のホームルームを企画した。1年生については文理選択や志望分野決定に向けて意識を考させることができた。企画が同時期に重なることもあり精査が必要。	2.7		
	・進路実現に必要な情報提供を行い、進路目標実現に向けた意欲を喚起させる		・新課程入試1年目ということもあり、状況提供をしっかりと行った。次年度に向けて、こちらからの情報提供だけでなく、生徒自ら必要な情報を取りに行く力の育成も考える。	3.0		
	・進路希望調査や進路検討会を踏まえて適切な進路情報の提供を行う		・大量に届く進路情報は適切に整理、取捨選択して生徒の進路希望に合わせて情報提供した。また、進路検討会の内容は担任との個別面談の資料に役立てることができた。	3.1		
	・模試を効果的に実施し、模試結果の学力分析を情報提供する		・模試の結果分析を緻密に行い、各教科に情報提供を行い指導改善の資料とした。新課程入試が進んでいくので確かな学力の育成に動めなくてはならない。	3.0		
資質保障 生徒支援に関すること	・基本的生活習慣を確立し、規則遵守の大切さを理解し行動できる資質の育成を図る	教職員の自己評価 3.0以上(4段階) を目標とする	・基本的生活習慣の確立へ向けた指導を行ったが、服装を正すことの大切さを理解し、行動できる資質を身に付けさせる指導が不十分だった。	2.6		
	・支援が必要な生徒に対して、担任、関係教員、関係機関と連携して支援に努める		・学校生活に課題を抱える生徒に対し、特別支援Co、SC、みらいデザインルームの役割分担が明確になってきたことで、スムーズな支援になってきた。	3.6		
	・ホームルーム活動を通して望ましい人間関係を構築できる力を育てる		・「未来つくるプロジェクト」の取り組みの中で、外部講師の協力も得ながら、より良い人間関係づくりに関する学びを生徒に提供した。	3.0		
	・集団での自分の役割と責任を自覚し、互いの個性を尊重しながら行動できる力を養う		・安全安心アンケートを実施し、いじめの早期発見に努めた。いじめ事案に対しても組織的に対応している。	3.3		
	・生徒会の活性化をはかり、生徒の主体的、自主的な活動につなげる		・生徒会執行部を中心とした学園祭企画運営は生徒の主体的な姿勢が多く見られた。PTAとも連携してクリスマスイルミネーションの飾り付け、および点灯式を行った。	3.1		
	・生徒が主体的に取り組める学校行事の企画・運営に努める		・各行事で生徒会を中心として、独自の企画を出すなど生徒の活躍を見ることができた。一方、並行して授業時間の確保の観点で行事の精選、見直しを検討した。	3.0		
・部活動の充実を図り、計画的に取り組む力と自己管理能力を育成する	アンケートでは1,2年生の約24%が「部活動に入っていない」と回答している。「身につけさせたい資質・能力」の育成のためにも文武両道を実践できる環境作りに貢献したい。	2.7				
学校運営	・教育目標、重点目標をすべての教育活動を通して達成する	教職員の自己評価 3.0以上(4段階) を目標とする	・ブランドデザインのもと、重点目標達成に向け、授業、学校行事、部活動、SSH事業などすべての教育活動を通して、教職員が努力した。来年に向けてさらなる連携強化を図る。	3.1	・益田高校の良さや魅力を様々な場面や機会 で校外に向けてしっかりとアピールし、地域の中学生や保護者に選んでもらえる学校であることを期待する。 ・様々な課題に注力し、コンソーシアム、PTA、卒業生会、地域、大学等関係機関と連携をはかりつつ、学校運営に取り組むたい。	
	・事業予算の適切な執行と校内の施設設備の維持管理を進める		・限られた予算を適切に執行できるよう努めた。施設設備の修繕を進めるとともに、校内の整理整頓が進んだ。	3.3		
	・保護者、地域、関係機関と双方向的、協働的な関係性を構築する		・PTA活動はおおむね計画通りに進められた。学級懇談会や部活動懇談会を実施したところPTA総会への出席率が向上した。HPなどで情報発信がこまめになってきた。	3.4		

